

わがまちの環境保全と対策



「第2次山県市環境基本計画の策定にあたって」

山県市長 林 宏 優

新年、おめでとうございます。平成31年の輝かしい新春をご健勝にてお迎えのことと心からお慶び申し上げます。一般社団法人岐阜県産業環境保全協会並びに会員の皆さまにおかれましては、産業廃棄物の適正な処理と環境保全にご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年は、「平成」から次の時代へとつながる「節目の年」となります。そして新元号がスタートをし、本市にとっては待望の東海環状自動車道高富ICの開通を見据え、山県市を未来に導く道となるよう、総合的に各種施策を推進しているところでございます。

その中のひとつである環境行政につきましては昨年度、12年ぶりに市の環境基本計画を改定いたしました。

基本理念としましては「環境の良さが実感できるまち やまがた」の実現をめざし、スローガンとして、「みんなで育み、誇りをもって新たな世代に引き継ごう」を掲げました。

本市は、豊かな森林に恵まれ北端の日永岳を最高峰とする連峰をめぐらし、山間を縫って武儀川、鳥羽川、伊自良川が流れこれらに沿って耕地、宅地が散在する多様な自然に抱かれた緑豊かなまちです。

これらの豊かな自然と快適な生活環境を将来世代にも引き継いでゆくことは、私たちの責務でもあり、今回の計画改定に際しましては、次の3つの点を重視いたしました。

まず第1点目として「市民の皆さんの関心が高い身近な環境問題をより重視した計画」といたしました。

環境問題は、対象となるテーマが広く多岐にわたるため、国レベルの協議をはじめ、様々な法制度、企業による技術開発などそれぞれの主体が役割を果たしています。こうしたことを踏まえ、市が中心となって役割を果たすべき市民からの要望や相談が多く寄せられる身近な環境問題を重視し、適切に反映させることに配慮をいたしました。

第2点目として、「環境を守り伝える人づくり」を念頭に置いた内容といたしました。

環境問題を解決する出発点としましては、市民、事業者、行政の各々が環境に目を向け関心をもちながら、日常生活や事業活動の中で環境に配慮した行動を積み重ねることが、大切であると考えております。そのため協働経験を通じたコミュニケーションにより、「自分たちの地域は自分たちで良くしたい」という気持ちを醸成するとともに、環境活動の裾野を広げ持続可能な社会を実現するため、環境を守り伝える人づくりを重視する内容といたしました。

最後の第3点目といたしましては、「今ある山県市特有のものを大切にする」ことで山県らしさを活かす内容といたしました。

本市は、長良川水系のまちとしての誇りであるきれいな水を育み、円原の伏流水や瀬見峡など流域内に美しい自然景観をもつ神崎川や、山県市三名山(舟伏山、釜ヶ谷山、相戸岳)など豊かな自然に恵まれております。また、こうした豊かな自然は多様な生態系を支えており多くの種類の鳥類、魚類、植物等が生息しております。中には岐阜県のレッドデータブック絶滅危惧種Ⅰ類に指定されている「ハリヨ」や準絶滅危惧種の「ヒダサンショウウオ」といった稀少生物も生息しており、こうした今ある市特有のものを、将来世代との共有財産として大切に守っていくことをめざしております。

以上が計画改定にあたりまして重視したポイントでございますが、計画の実効性を高め、効果的に環境施策を推進していくためには、市民や事業者、行政の協働(パートナーシップ)のもとで、それぞれが期待される役割を主体的に果たしていくことが非常に大切であると考えております。

今後とも貴協会のご指導とご協力を賜りながら、将来世代との共有財産として市域の環境保全に取り組んでまいりたいと存じます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆さま方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。